

2020年ワーキング・スタディ・ツアー アンケート

UAゼンセン 教育・社会運動局 小林 孝徳

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・中古衣料が必要なところに届いており、感謝をされていること。
- ・小学校の建設の必要性と建設後の課題について現地の話が聞けたこと。
- ・ラオスやタイの経済事情やラオスでの教育事情が学べたこと。
- ・他産別の方々と情報交換や各組織のCSAの取り組みを聞けたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・小学校での中古衣料に対する感謝と子供たちの笑顔。
- ・サンティパーブ高校の寮生の勉強への熱心さと卒業生たちがラオスの将来に向けて、医師等を目指して進学したり、行政官となっていること。
- ・CSAのように組織として中古衣類を寄贈している団体はタイではないという事実。

3) 現地の訪問先がCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・ラオスとタイともに高く評価されていると感じた。
- ・また非常に今後についても期待していると感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・スケジュール的にはとてもよかったですと思います。
- ・訪問先として可能であれば、もう1校位行けたらと思いました。
- ・あとルアンプラバンのナイトマーケットの時間がもう少しあればと思います。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか

- ・各学校や行政からも、この活動が非常に高く評価されていることを感じました。
- ・行政として、なかなか手が届かないことにCSAが支援していることも行政との意見交換で知ることができました。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・今後もこの活動を継続してほしい。
- ・また現地での協力団体の発掘・育成をし、現地での支援体制が構築できればとも思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・もっと自組織で参加出来てない組合に参加を呼び掛けたりしていく。
- ・まだ参加していない組織へは情宣物を展開し理解を深める。
- ・支援している国や学校に対しても、CSAの活動を理解してもらうために広報活動をおこなっていく。

3. 今回の視察団の感想と今後のあり方について

1) 全体の感想。

- ・実際に現地で見るとは大きな収穫があったと思った。
- ・見たものをしっかり内部で展開していく。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・大いにあった。
- ・CSAを支援している他の産別のメンバーと情報交換をすることで、他の産別がどのように取り組んでいるか知ることができた。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・役割分担をすることで責任感と連帯感がうまれたと思える。
- ・鈴木事務局長の緻密な事前準備と山根木団長のフォローと臨機応変な対応で団結できたと思う。

吉岡 爽 (イオンリテールワーカーズユニオン)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・組合員の方から頂いた中古衣料・募金が現地に届き使われていることが目で見ることができたことはとても良かった。
- ・ラオス・タイという国がどのような状況であるかを各省庁や大使館で学ぶことができたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・訪問先の小学生たちがキラキラした目で私たちを見ていたこと。とても純粋でこの子どもたちがラオスの将来を担っているのだと感じた。
- ・タイの中古衣料の倉庫では段ボールに入っていた衣料が性別・季節・年齢別に100枚パックで整理され、すぐに各地域に送れるようにしていたこと。

3) 現地の訪問先がCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・長い間活動に取り組んでいるのでとても歓迎してもらった。
- ・今までの活動がしっかり引き継がれているので初めて来た私たちにもとても手厚い対応をしてくれていたと感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・休憩する時間も程よくあり体調も誰一人崩さなかったのは、スケジュールと訪問先のバランスが良かったからだと思う。
- ・各場所の訪問時に知りたいことが多くあり、時間が不足している場面もあったので大使館や衣料倉庫などは時間が多くあればよいと思う。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか

- ・なかなか単組ではCSAの活動内容を詳しく知る機会がなく今回初めて知ることが多くあった。
- ・現地でどのような人たちに中古衣料が送られているのか、また寄贈した小学校が村人にとって不可欠な存在になっていることは誇らしかった。

2) CSAは、今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

- ・中古衣料を届けることは量が増減したとしても続けるべきかと思います。今回訪問し、ラオスでの小学校不足が問題と感じたので小学校の建設はさらに増やすべきかと思った。
- ・国としての教育体制などをどのように支援できるか分かりませんができればラオスがさらに発展するのではないかと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・まずは参加した私たち単組が、CSAがどのような活動をしているのか組合員のみんなに共有をすることが必要である。
- ・今回中古衣料のニーズを聞くことができたので募集する際に募集用紙にニーズを書くべきだと思う。

3. 今回の視察団の感想と今後のあり方について

1) 全体の感想。

- ・初めての経験をさせてもらいCSAの活動を知ることができ勉強になった。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか?

- ・普段の単組活動では交流ができない組織の方々と一緒に活動をし、どのような活動をしているのかを知ることができ刺激を受けた。
- ・連合や上部団体の方と共に活動をし、どのような考えを持っているのか知ることができ学びになった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか?

- ・役割分担がしっかりしており、団長・事務局長が団を引っ張って下さったおかげでスムーズに行程が進むことができた、ありがとうございます。
- ・毎日役割分担が変わり、視察・訪問にメリハリがついて良かったと思う。

藤井 雅実 (UAゼンセン・全プリマハム労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・弊組合から送付した衣類の段ボールをラオスの小学校で発見し、支援活動が感謝されていると感じたこと。
- ・各省庁や大使館への訪問や、現地の方々との交流により、ラオスという国を知ることができたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・特に小学生の子どもたちの表情が明るく、希望に満ち溢れていたこと。
- ・自分が見た範囲のラオス国民は、想像しているより豊かそうな生活をしているように感じたこと。

3) 現地の訪問先がCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・各省庁や小学校など、全ての訪問先で温かく歓迎されたので、衣類や小学校、高校生寮の支援に対して非常に感謝されているように感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・各訪問先で貴重な経験をさせて頂き、非常に充実した1週間でした。
- ・移動日には観光を入れて頂き、現地の食を堪能できたのも嬉しかったです。
- ・ラオス・タイともに最初に大使館を訪問した方が、国の基礎知識を理解した上で各訪問先を回れて良いのでは、と感じました。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディー・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか

- ・様々な支援に対し、とても感謝されているので、素晴らしいことだと感じました。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・従来のような支援は継続しつつ、いずれはラオスやタイ国内で衣類や小学校不足などの問題への対策を取れるようにサポートをすることが出来ればなお良いと思います。
- ・各箇所でも今、本当に必要とされていることをヒアリングすることも大切だと思います（例：高校生寮でのWi-Fi設置など）

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・ワーキング・スタディ・ツアー参加者が各職場のメンバーに今回感じたことを共有することで、各組織での衣類支援などの活動に協力的になってもらえたら良いと思います。

3. 今回の視察団の感想と今後のあり方について

1) 全体の感想。

- ・感想文に記載。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・他の産別の方と交流する機会は普段あまりないので、仕事や組合活動のことなどについて意見交換ができる良い機会になりました。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・毎日各訪問先での役割分担を決め、事前に確認しながら活動できたので、メリハリがあつて良かったと思います。
- ・メンバーにも恵まれ、とても楽しく充実した1週間でした。

谷口 憂也（JAM・神鋼機器労働組合）

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・幣組が送った中古衣類をタイ・ラオスの衣類倉庫で発見できたこと。また、どのような衣類を必要としているか聞くことができた。
- ・CSA、連合が建設寄贈した学校を実際に見て、補修箇所等の確認・学校側の要望も聞くことができた。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・訪問先の小学校の子供たちの輝いた目、熱心に勉強に取り組む姿、外で元気に遊ぶ姿。

3) 現地の訪問先がCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・どの訪問先でも歓迎され、温かく迎え入れて下さったことがCSAの活動に対する感謝の表れだと思った。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・時間に追われることがほとんどなく、日中は業務をこなし空いた時間で、観光やナイトマーケットなどで買い物もでき、充実した時間を過ごすことができた。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか

- ・支援している所実際にいき、自分の目で確かめることで初めて分かることもあるから、非常に有意義な活動だと思った。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・まずは、現在行っている支援活動の継続。
- ・学校に通いたくても、学校の数が足りない、家庭の都合等で学校に通うことができない子供たちのために、可能であれば学校をさらに建設寄贈、何らかの形で支援する策を取れるような環境作りを現地の教育省などと話していけたらいいと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・今までのように役割分担、毎日の夕食時にメンバー全員のその日の感想を共有し合ったり、乾杯時の挨拶等もしていくと、より親睦を深める事ができ業務にも生きてくると思う。

3. 今回の視察団の感想と今後のあり方について

1) 全体の感想。

- ・最初は不安で一杯だったが、合流して現地で業務をこなしていくうちに不安も消え、沢山勉強でき、充実した日々を過ごすことができた。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・皆さんと組織や仕事の話から他愛もない話までできた。
- ・今後も交流を続けていきたいと思った。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか?

- ・事務局があらかじめ役割を割り当てて下さったおかげで、自分の役割が明確になっておりしっかりこなすことができた。
- ・スケジュールにもゆとりがあり、協力し合いながら楽しく業務をこなすことができた。

薦田 弘幸 (基幹労連・IHI労働組合連合会相生支部)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・我々が取り組んでいる、救援衣類カンパや募金活動が、現地の人達に喜ばれており、学校建設・補修も必要とされている事が実感出来たこと。
- ・いろんな単組の方々と交流、情報交換が出来たこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・サンティパープ高校生寮の卒寮生との交流の中で、進学して、将来は教師や医者になりたいなど、明確な目標を持って努力している姿。
- ・訪問した小学校の子供たちの笑顔と人懐っこさ

3) 現地の訪問先がCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・全ての訪問先で、歓迎されCSAの活動が高く評価されていると感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・視察や公式訪問など多くのイベントが予定されている中で、事務局の柔軟な対応のおかげで、大きな遅れもなくスムーズに行動できたと思う。
- ・短時間ではあったが、子供たちとの交流・救援衣類の引き渡し式・大使館訪問など、貴重な経験をさせて頂き、有意義な時間を過ごすことができた。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか

- ・学校の建設・補修や寮の運営管理補助など必要とされている活動であり、ラオスの発展に寄与した有意義な活動だと感じた。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・支援活動は継続すべきだと思う。
- ・学校建設など、まずは、教育を受けられる場所を提供することだと思うが、訪問先で話を聞くと、先生が足りていないという実情もあるので、現在の支援活動の形に囚われず、人材育成など、人に対する支援ができればよいと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・支援活動の内容や結果は勿論のこと、現状の支援状況の報告など、広報活動の充実を図り、支援団体・支援者を増やしていくことが必要であると感じた。

3. 今回の視察団の感想と今後のあり方について

1) 全体の感想。

- ・このツアーでしか経験できないことばかりで、メンバーにも恵まれ有意義な時間を過ごすことができてよかった。
- ・多くの方に経験してもらおうことで、広く周知され、活動の幅が広がっていくと思うので継続してほしい。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・他産別の方との数日間にわたっての交流は新鮮であり、各産別の考え方や取り組みなど、情報交換や共有など得るものが多く非常に有意義であった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・役割分担があることで、各自が責任を持って行動でき、非常に良かったと思う。
- ・事務局長の事前準備と朝晩のミーティングで、詳細な日程や役割の再確認ができ、メンバーの協力でスムーズに進行できたと思う。

高橋 聡（三菱重工グループ労働組合連合会）

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・実際に救援衣類が届けられていることが、目で見て、肌感することができ、取り組みの重要性を再認識することができたことが、よかった。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・支援先での子供たちの笑顔が、とてもまぶしく輝いて見えたことが印象的だった。

3) 現地の訪問先がCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・とても高い評価を受けていると感じた。訪問先での団の受け入れ状況をみてもそれが感じ取れた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・訪問先のボリュームからすれば、今回のスケジュールは妥当だと思う。詰め込んだ感じはあるが、限られた時間の中である程度はそうすべきだと考える。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) スタディーツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか

- ・現地では、非常に感謝されているし、国が発展していくためには教育は必要であるので、教育施設の寄贈は有意義な活動だと感じた。救援衣類についても需要があるので、必要な活動だと感じた。

2) CSAは、今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・タイ・ラオス以外の国や地域にも、活動を拡大していくのはどうでしょうか。
- ・これまでの活動の中で、まだまだ、衣類の行き渡っていない地域もあるかと思うが、もう少し範囲を広げるのもやり方としてあると思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・各単組内での活動に対する理解度を上げていくことで、活動への参加に対する壁が低くなっていくのではないかと考える。

3. 今回の視察団の感想と今後のあり方について

1) 全体の感想。

・感想文に記載。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

・それぞれの単組での取り組み方や、問題点などを共有できたことで、認識の幅が広がったと感じている。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

・日々のスケジュールをこなす中で、訪問先での役割を分担することがチームの一体感が醸成されていき、それが、さらに訪問先でのスムーズな進行につながっていったと感じた。非常によい運営だったと思う。

